



義援金の募金活動へのご協力、ありがとうございます

新年早々、石川県能登半島で起こった地震により、たくさんの方が亡くなられ、今でも安否不明の方が何人もおられます。そして、避難されている方たちの生活も、北陸地方の寒さのため、とても過酷な状態だそうです。中学校が避難所になっているところもあり、受験を控えた中学生の中には、自分の町、親元を離れ、別の町で避難生活をしている人たちもたくさんいるそうです。鳥取県でも2016年の鳥取県中部地震で避難生活をしなければならなかった方たちがいました。学校は次の日から再開しましたが、全壊、半壊、一部破損した住宅が完全に修復するまでにはかなりの時間がかかっていました。鳥取県中部地震以上の被害が出ている能登半島地震については、復興までにもっと時間がかかることが予想されますが、被災された方たちには少しでも早く元の日常を取り戻してほしいと願っています。

さて、湯梨浜中学校生徒会では、生徒会執行部の「石川県の多くの人たちが今回の地震で当たり前にあった日常を失ってしまった。そんな被災した人たちに少しでも早く日常を取り戻してほしい。困ったときはみんなで助け合える社会にしていきたい」、そんな願いのもと、1月10日（水）から、いち早く地震災害義援金の募金活動を開始しました。新学期始まってすぐ、こうやって人のために行動ができる生徒会執行部の生徒と、その呼びかけに応じて募金活動に協力する温かい全校生徒・保護者の皆様の行動に心打たれた数日間でした。最初は2万円か3万円でも集まれば、少しでも被災地の役に立てるのではないかと考えていたのですが、最終的に集まった金額は何と129,626円と、中学生の募金活動としては想像以上の金額でした。協力してくださった皆様、本当にありがとうございます。



宮脇町長さんに災害義援金をお預けしてきました



義援金を募る執行部の人も、義援金を入れる生徒たちも本当に温かく優しい表情をしていました

1月22日（月）、集まった義援金は生徒会代表の3人（山田生徒会長、杉本生徒副会長、濱崎生徒副会長）が宮脇湯梨浜町長さんにお預けしてきました。山田生徒会長の「石川県での復興が少しでも早く進むことを願いながら、今後も自分たちにできることにしっかりと向き合っていきます」という言葉が印象に残りました。義援金はこの後、日本赤十字社湯梨浜町分区を通じて日本赤十字社に届けられ、被災地の方々の生活支援に役立てられる予定です。



ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



日本人の温かさ (東日本大震災でのSNSでのメッセージを通して)

今回の能登半島地震災害義援金の募金活動での生徒や保護者の皆様の温かいご支援を通じて、東日本大震災の時にSNS上であふれた温かいメッセージの数々を思い出しました。少しだけですがご紹介させていただきます。以前道德の授業でもつかったことがあります、**読むだけでも心が温かくなります。**



※死ぬ気でがんばってくれている人がいる。

停電すると、それを直す人がいて、断水すると、それを直す人がいて、原発で事故が起きると、それを直しに行く人がいる。勝手に復旧しているわけじゃない。俺らが室内でマダカナーとか言っている間、クソ寒い中死ぬ気で頑張ってくれている人がいる。

※渋滞した交差点で

一回の青信号で1台しか前に進めないなんてザラだったけど、誰もが譲り合い穏やかに運転している姿に感動した。複雑な交差点で交通が5分以上完全マヒするシーンもあったけど、10時間の間お礼以外のクラクションの音を耳にしなかった。恐怖と同時に心温まる時間で、日本がますます好きになった。

※父親の行動

中部電力から関東に送電が始まっている話をしたら、普段はTVも暖房も明かりもつけっぱなしの父親が何も言わずに率先してコンセントを抜きに行った。少し感動した。

※買うのやめるわ

バイト先に若いお兄さんたちが軍団でお酒を買いに来たんだけど、その中の一人が「やべえ、オレお酒代しか持ってきてないから募金できん。ちょっとこれ買うのやめるわ」って言って商品返品してそのお金全部募金してた。お友達も続々と募金しててすごい感動した。すごいよ。

※日本って世界一温かい国

4時間の道のりを歩いて帰っているときに、トイレのご利用どうぞ！と書いたスケッチブックを持って、自宅のお手洗いを開放していた女性がいた。日本って、やはり世界一温かい国だよ。あれ見た時は感動して泣けてきた。

※ディズニーランドでの出来事

ディズニーランドでは、ショップのお菓子なども配給された。ちょっと派手目な女子高生たちが必要以上にたくさんもらって、「何だ？」って一瞬思ったけど、その後その子たちが、避難所の子どもたちにお菓子を配っていたところ見て感動。子ども連れば動けない状態だったから、本当にありがたい心配りだった。

※スーパーでの出来事

スーパーで無事買い物できました。でも、お客さんのほとんどが他の人の事を考えて必要最低限しか買わない感じだったのが感動しました。(涙)

※大丈夫、未来あるよ。

避難所でおじいさんが「これからどうなるんだろう」と漏らした時、横に居た高校生ぐらいの男の子が「大丈夫、大人になったら僕らが絶対元に戻します」って背中をさすって言ってたらしい。大丈夫、未来あるよ。

※小さな決断

子どもがお菓子を持ってレジに並んでいたけれど、順番が近くなり、レジを見て考え込み、レジ横にあった募金箱にお金を入れて、お菓子を棚に戻し出て行きました。店員さんがその子どもの背中に向けてかけた「ありがとうございます」という声が、震えていました。

※「みんな」

タクシー運ちゃんや電車駅員さんとおばさんと話したけど、みんな遅くまで帰れなかったりしてすごく疲れているのに、苛立つ事なく、言葉遣いもふるまいも丁寧で、逆に気遣われてしまった。「みんな大変だから」という“みんな”って意識があることに感動するし、私も受け継いで大事にしたい文化。

被災地石川県でも、日本全国でも、東日本大震災の時のような温かい出来事がたくさん起こり、少しずつ復興へ向かって前進していることを信じて日々の生活に頑張しましょう！

頑張れ！石川 頑張れ！日本

